

国際シンポジウム

大学と美術の 可能性を求めて

2016年10月15日〔土〕

九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館大講義室

主催＝科研共同研究 大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究



INTERNATIONAL SYMPOSIUM
UNIVERSITY AND ART:
LOOKING FOR ITS POSSIBILITIES

国際シンポジウム 大学と美術の可能性を求めて

日時 || 2016年10月15日[土] 13:00-17:00

場所 || 九州大学箱崎キャンパス 旧工学部本館大講義室

参加無料(定員約300名) | 事前申込不要 | 通訳あり

主催 || 科研共同研究 大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究

この秋「九大百年 美術をめぐる物語」展(福岡県立美術館など)が開催されます。九州大学が創立以来百年にわたり、「美術」とどのように関わり、「美術」を通してどのような役割を果たしてきたのかを振り返り、未来への可能性を考える展覧会です。

この展覧会の開催に合わせ、大学が「美術」を通してなにができるのか、なにをなすべきなのか、をテーマにシンポジウムを企画しました。躍進目覚ましいシンガポールの国立大学の現代美術への取り組み、韓国の大学ミュージアムの活動、また多様な芸術活動を展開する大阪大学の事例に、あわせて九州大学の新しい試みを紹介するとともに、「九大百年」展の成果もふまえながら、大学が「美術」というリソースをどのように活用するのかについて検討し、その可能性と課題について考察したいと思います。

[プログラム]

後小路雅弘(九州大学大学院人文科学研究院 教授)

基調報告:「九大百年 美術をめぐる物語」展から

アンカ・ルジョイユ(シンガポール 南洋理工大学現代美術センター 出版部長)

「学び続ける組織 *The Learning Machine*」

鄭于澤(韓国 東国大学 教授/大学博物館館長)

「韓国の大学博物館の役割—東国大学を中心に」

木ノ下智恵子(元・大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任准教授)

「芸術の拡張機能と社会学連携の可能性」

尾本章(九州大学大学院芸術工学研究院 ソーシャルアートラボ・ラボ長)

「社会にアートをデザインする ~ホールマネジメントエンジニア育成とソーシャルアートラボの可能性~」

ディスカッション

[コメンテーター]

五十殿利治(筑波大学芸術系 教授)

橋爪節也(大阪大学総合学術博物館 教授)

関連事業「九大百年 美術をめぐる物語」

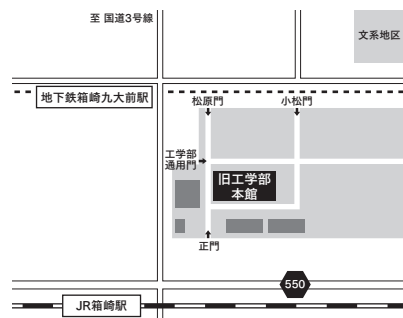
2016年10月8日—11月13日 | 福岡県立美術館 4階展示室
月曜休館(ただし10月10日は開館し翌11日休館)

なお九州大学総合研究博物館・九州大学医学歴史館でサテライト展示があります。
詳細は各館のウェブサイトでご確認ください。

[問い合わせ]

九州大学大学院人文科学府芸術学研究室 後小路雅弘

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 | ushiro@lit.kyushu-u.ac.jp



地下鉄「箱崎九大前」、JR「箱崎」より徒歩10分

INTERNATIONAL SYMPOSIUM
UNIVERSITY AND ART:
LOOKING FOR ITS POSSIBILITIES